

(別記)

2019 年度河津町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

河津町では、54haの水田を有しているが、水稲が作付けられているのは7haで、主食用米が大部分を占めている。多くの水田では畑作への転換が進んでおり、転換作物としては、野菜が主であるが、花卉や果樹も作付けられている。

河津町の水田は傾斜地で狭小のものが多く、農業者の高齢化や担い手不足により農家数が減少し、不作付地の拡大が進んでいる。

また、水稲を作付けする農業者が減ったことにより、水路等の施設の維持管理が課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

自家消費、個人販売の割合が多い。生産数量の目安に沿った作付を推進する。

(2) 大豆

戦略作物助成を活用し、大豆の作付を推進する。

(3) 高収益作物（園芸作物等）

ア 野菜

イチゴ、トマト、ナバナ等を中心に振興品目として作付面積の拡大を推進する。

イ 花卉・花木

町の特産であるカーネーション、菖蒲を中心に、バラ、キンギョソウ等を振興品目として作付面積の拡大を推進する。

ウ 果樹

不知火、日向夏を中心に振興品目として作付面積の拡大を推進する。

(4) 畑地化の推進

不作付地や耕作放棄地となっている水田の畑地への転換を促す。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	7	7	7
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆	1	1	1
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	4.6	4.6	4.9
野菜	3.6	3.6	3.8
花卉・花木	6	6	6
果樹	3	3	4
その他作物	1	1	1

4 課題解決に向けた取組及び目標

戦略作物助成を活用し、大豆の転作を支援する。

なお、産地交付金の活用は行わないため、高収益作物等拡大加算の配分の対象となった場合についても、河津町農業再生協議会での活用は行わない。